参考資料１

日本語教育小委員会（第６７回）で出された主な意見

論点７について
全体について
・　報告の前半で取り上げている課題と事例の観点とがつながるようにした方がよい。
・　ボランティアの「活用」など，現場で活動する人が見て，気になる表現があるのではないか。
１．はじめに～３．地域における日本語教育の現状と課題
・　在留外国人数，外国人住民数等，報告において使用する数字を揃えた方が良いのではないか。
１．はじめに
・　子供と大人，生活環境などによって必要な対応は異なる。分けて考えた方が良いのではないか。
２．外国人を取り巻く状況について
・　外国人を取り巻く状況について，国全体の話だけでなく，①地域で何が起きているのかというレベルからも書くことが必要ではないか。また，②状況は変化しうるということを書くべき。
３．１　地域における日本語教育の全体的な状況
・　日本語を学ぶことについて，外国人だけでなく，地域社会の側のニーズも考えるべきではないか。
３．２　地方公共団体における日本語教育の状況
・　市区町村についてボランティアによる取組が９０％以上となっているということについて，今後「求められる」ことのみ書くのはどうか。在り方とは何かということが，そもそも不明瞭ではないか。
４．１　地方公共団体における実施体制
・　外国人とつながる，学習者へのアプローチなどが大事になるのではないか。ハード面での体制だけでなく，アプローチも含めた視点も大事ではないか。
・　ボランティアの位置付けが重要。ボランティア頼みということが常にマイナスであるとは限らず，地域社会との接点を作るという意味ではとても大きい。また，専門家が携わることで常にプラスとなるのか，具体的に検証もされていない。
４．３　日本語教育の実施体制のポイント
・　事例について，主体を類型化して，課題や方向性についても整理することが大事ではないか。主体がどのような状況か，などということについて分かりやすく書くべき。
論点８について
２．２　活用方法，活用の効果
・　目的，ねらいをしっかりと絞り込む必要があるのではないか。実態調査か意識調査も含むのか。ある程度，政策に結び付けていくための判断が必要。
２．２　活用方法，活用の効果の【図】
・　習得が進んだあるいは進まなかった理由については分からないのではないか。
・　個別のケースだけでなく，全体の傾向を見ていくことが必要だろう。一般化もある程度必要ではないだろうか。
・　一般化はできず，結局，傾向が分かるだけではないだろうか。
３．２　日本語学習に関する項目
・　共通利用項目について，外国人は日本語学習をすべきということが前提となっているような印象を受ける。外国人の意志を大事にするような調査項目にすることが大事ではないか。
・　学校型の学習に慣れている人だけとは限らず，日常生活の中で日本語を身に付ける人もいる。そういった状況が見えるようにした方が良いのではないか。
・　うまくいかなかった事例も拾えるようにすることが大事ではないか。日本語を使わない人に対する不安を地域の日本人が持っていることもある。なぜ日本語教室に行かなくてもよいと思ったのか，行かなくても問題がないと思ったかといったことを見られるようにした方がよいだろう。意識が見えた方がよいのではないか。
・　なぜ日本語教室に行かないのかということだけでなく，その判断はライフステージの見通しを考えた上でのものかどうかということを聞く必要があるのではないか。
・　日本語の必要性について，もっと丁寧に聞いた方が良いのではないか。